



大きな恵みをもたらす山田湾——。水産業振興のため、漁業系廃棄物の処理対策の確立が求められます



田村剛一議員

水産振興

漁協合併、残さい処理対策

漁業者結束して取り組みを

質問 山田の水産振興を考える時、二つの大きな課題が横たわっていると考えられる。一つは漁協の合併問題。もう一つは、養殖漁業におけるカキ殻など残さい処理の問題である。これらの問題にどう対処するつもりか。

沼崎町長 合併問題では、多額の欠損金が障害となっ

ているが、漁協経営と合併の問題に関しては、県と連携して支援していきたい。残さい処理については、法律に則って処理するよう指導を受けた。生産過程で減量化を図ると共に、他地区の処理場で堆肥化処理することも検討していきたい。

質問 畜産農家に対しては五億円もの巨費を投じ、

残さい処理に対してはそれ以上の支援があつてしかるべきと思うがどうか。

堆肥センターを建設し支援した。山田町の基幹産業である水産振興を図る上から、

佐藤産業振興課長 今、

ある漁協で進めている処理対策に注目している。漁業者が結束して当たれるような事業であれば、真剣に受け止め支援を含め検討していくことはやぶさかではない。

教育行政

安全指導に防災無線を活用

児童の安全は全力体制

質問 十一月十五日に発生した地震の際、各学校の対応はどうであったか。

また、女子児童が惨殺される事件が続発している。児童生徒の安全帰宅を促すため防災無線を活用しては。

松尾教育長 十一月十五日は、北小、船小が自宅待機、大浦小、大沢小が電話の問い合わせには自宅待機、既に登校している児童には、普通登校で対応した。

防災無線の活用について、愛の一声運動として長期

休業中実施しているの、今後も継続したい。

質問 災害時には電話連絡ではなく防災無線を活用したらどうか。各学校ばらばらの対応でなく、統一できるものは統一して対応すべきと思う。また、安全指導には万全を期してもらいたい。

松尾教育長 学校長とも協議して前向きに検討していきたい。児童生徒の安全については、信念をもって、全力体制で臨む。

町の考えを聞く